



かんばるっ子

備中町平川では、毎年11月の上旬から中旬にかけ豊作と無事を祝って感謝する秋祭りがあり、地区ごとに渡り拍子が氏神様に奉納されます。中でも4地区の渡り拍子が一堂に集って奉納される、11月3日の鋤崎八幡神社の秋祭りは圧巻です。

平川の歴史六百数十年の内、渡り拍子は三百年余りを経ているといわれています。この伝統芸能を後世まで伝えようと、平成元年に同保存会が発足。子どもたちを指導し、伝統芸能の継承に努めています。

渡り拍子は、音頭取りの幸領を先頭に、采弊・幟・先祓い(猿田彦の命・獅子)が続き、この後へ大太鼓1つに4人の跳び子が付き、これに鉦が入って、のどかなリズムで勇壮華麗に飛び跳ねるものです。

祭りの主役は子どもたち。法被・袴に花笠を被り、バチに和紙で飾りをつけた

『伝統芸能を引き継ぐ』

—平川渡り拍子保存会の子どもたち— 代表 平木宗夫さん(67)



バイで太鼓を叩きながら舞います。10月の上旬から地区ごとに集まり、基本動作や楽譜合わせなどを確認しあい本番に備えます。

江草亮太君(平川小5年)は「太鼓のまわりを跳ねまわる順番が難しいけど、離れて跳ぶところがおもしろい」。昨年参加している井上真行君(平川小1年)は「花笠が重くて大変だった。でも、うちの人からほめてもらって嬉しかった。今年も楽しみ」。また、小学2年生から加わっている井上拳斗君(備中中2年)は、「昔から伝わっているので、続けていかなければ、今年も間違わないように頑張りたい」と話してくれました。

同保存会では、文化庁の助成を受けて「伝統文化子ども教室」を年間を通して行っています。地区の子どもが集まって、舞う方法から衣装・小道具づくり、歴史に至る総合的な渡り拍子を、地元の人たちから学びます。

会長の平木さんは「子どもは地域の宝です。大人たちと一緒に取り組むことで近所の皆さんとも親しくなれ、楽しみながらやっているようです。子どもの時に覚えることで一生忘れないでしょう。先人たちが守ってきた伝統芸能を絶やさないよう頑張っています」と話します。

11月3日は、正午過ぎに鋤崎八幡神社で奉納されます。ご覧ください。



カラー
NPO法人 color (南町)
理事長 行藤 路代さん(28)

市内で障害児や障害者の地域生活支援を進めているNPO法人(特定非営利活動法人)・color。

「小さくても地域に密着したサービスができた」と、在宅支援に携わってきた大学講師や元施設職員ら女性3人が児童デイサービスの運営を計画し、今年2月にNPO法人を設立しました。

そして、南町の空き店舗を借りて、5月に児童デイサービス「みずたま」を開所し、活動しています。

「みずたま」では、就学前児と小学生を対象として、発達段階に遅れのある子どもたちの療育支援や日常生活訓練などを行っています。

「小規模ですが、教材もみんなで手づくりしていて、子ども一人ひとりの状態や発達に合わせて柔軟な対応ができるんですよ。他者と交流することです。今は休日の利用が多いのですが、平日も気軽に利用してもらえれば」と理事長の行藤さん。

10月からは市の委託を受け、児童から成人までを対象とする日中一時支

地域ぐるみの支援を目指して



教材をつくるみなさん

援事業も開始しました。

メンバーの薬師寺明子さん(33)は「障害の有無にかかわらず、子育ては何かと大変です。住み慣れた地域で子どもたちが暮らしていけるよう、家族への支援ができればと思っています」と話されます。

障害理解に対する認識を高め、支援関係者の連携を図るため、発達支援講習会なども開催しています。

「試行錯誤しながらの取り組みですが、9月30日に行った講習会には多くの参加がありました。講習会後のアンケートでは「もっと具体的な話が聞きたい」、「同じ立場の人と情報交換をしたい」との声も多く、今後、こうしたニーズに応じた企画にも取り組んでいきたいですね」と永田恵理子さん(26)。

みんなが持つそれぞれのすてきな色が交われば、また違うすてきな色生まれる。そんな願いが込められた「color」という名前。地域に根付き、みんなの色が交わる地域ぐるみの支援を目指し、活動を続けます。

同法人へのお問い合わせは、☎03-6111まで。



39Project

～楽しさ広がるそんな祭りに～

学校法人 高梁学園 広報室



11月10日(金)から12日(日)までの3日間、吉備国際大学・順正短期大学・順正高等看護専門学校の3校合同学園祭「伊賀祭」を開催します。

今年は、学生たちを支援・応援して下さる皆さんや支え合っている仲間たちへの感謝の気持ちを込めて、タイトルを「39(サンキュー)Project」としました。サブタイトルには、高梁全域だけでなく岡山全域に楽しさが広がって欲しいという願いを込めました。一人でも多くの市民の皆さん

に楽しんでいただけるよう、伊賀祭実行委員会を中心に学生たちが力を合わせて準備を進めています。

毎年ご好評いただいている「市民と学生の交流フェスタ」は、2日目の11日(土)午後10時から吉備国際大学構内で、アトラクション・工作・じゃんけん列車・水運びリレーなどを行う予定です(11ページに関連記事)。

11日(土)午後12時30分からは、順正短期大学体育館で「長州小力とジャイアント小馬場のお笑いショー」を予定しています。もちろん一般の人も入場できます(注:入場整理券が必要。入場整理券は11月10日(金)同大学体育館前で配る予定)。

3日目の12日(日)には、「UVERworld」のコンサートがあります。チケット(1300円)は好評発売中。ご希望の人は伊賀祭実行委員会本部までお問い合わせください。

ぜひ秋の一日を高梁学園でお過ごしください。お待ちしております。

■問い合わせ 伊賀祭実行委員会本部 (TEL)21853

編集後記

朝夕めつくりと涼しさを増し、秋の気配を肌で感じるようになりました。秋といえは、「スポーツの秋」、「実りの秋」、そして「学びの秋」でしょうか。

市内各地では、運動会をはじめとするスポーツ行事、また物産まつりなど、さまざまなイベントが行われています。皆さん、すでにいろいろな足を運ばれていると思いますが、高梁のさまざまな「秋」を堪能していただければと思います。

今月号では、来年、岡山県で開催される「第19回

私の自慢のペット



大橋冴月さん(82)
川面町

ギは近くの小学校や幼稚園などに譲り、そのウサギや子どもたちが元気に成長している姿を見ることが楽しみの一つです。

5年前から一人暮らしですが、趣味の読書や手芸を楽しみながら、ナナをはじめグッピーやスズムシなどのペットたちと暮らしています。声をかけるだけで癒され、幸せな気持ちになります。また、近所に住む孫が毎日顔を見せてくれるのも嬉しいですね。

お話し聞かせて

小動物が好きなので、ほかにいろいろな動物を飼ってみたいですが、年齢と相談して自分が責任を持つて面倒をみられる範囲で飼うことにしています。最近、動物虐待のニュースをよく耳にしますが、もっと生き物を大切にしたいですね。

これからも、今一緒に暮らしているペットたちに、いっぱい愛情をそそいで、お互い元気で幸せに暮らすことが私の目標です。

全国生涯学習「エスティバル」の紹介も兼ねて、生涯学習について取り上げました。

今回、落合公民館のエアロビクス講座にお邪魔しました。皆さん、とても生き生きと楽しまれていて、見学していた私自身もそのパワーを分けてもらった気がします。

各公民館ではいろいろな講座が開かれていますので、「学びの秋」に、何か始めてみるのもよいのではないのでしょうか。

(YM)